

## 埼玉県環境白書の刊行にあたって



新型コロナウイルス感染症との戦いも既に2年近くが経過しようとしています。改めて県民の皆様の命を守るための取組への御協力に心から感謝します。引き続き、皆様の日常生活や経済活動における安心・安全を一刻も早く取り戻すよう努めてまいります。

こうした状況の中、本県は、今年の11月14日で誕生から150周年を迎えました。この間、鉄道や道路網の整備に伴う急速な都市化が進む一方で、環境問題にも対峙してきました。これまでに、県民や事業者の皆様のお理解と御協力により、大気や水質などの環境は着実に改善されてきています。これからも、私たちは、地球規模の問題である温暖化に取り組むとともに、恵み豊かな自然を守り育み、安心・安全な環境を次世代に引き継いでいかなければなりません。

県では「埼玉版SDGs」を掲げ、「誰一人取り残さない、持続可能な発展・成長をする埼玉づくり」を目指しているところであり、内閣府から令和3年度の「SDGs未来都市」に選定されました。「埼玉版SDGs」では「埼玉の豊かな水と緑を守り育む」を重点テーマの一つに位置付け、今年度から、県民・団体・企業が連携して埼玉の豊かな川を育む活動を県が支援する「SAITAMAリバーサポーターズプロジェクト」などを推進しています。

また、今年3月に第9次埼玉県廃棄物処理基本計画を策定し、県、市町村、県民及び事業者等とのパートナーシップによる「持続可能で環境にやさしい循環型社会」の実現に向け、「食品ロスの削減」、「プラスチック資源の循環的利用の推進」などに重点的に取り組んでいます。

この「埼玉県環境白書」は、本県の環境の状況と環境の保全や創造に関する施策の進捗状況を取りまとめたものです。この白書をきっかけに、多くの県民の皆様が環境問題に対する理解を深められるとともに、環境の保全・創造活動に取り組まれる際の一助となれば幸いです。

今後とも、皆様の御支援と御協力を心からお願い申し上げます。

令和3年12月

埼玉県知事 大野 元裕